



古きをたずねて

美唄歯科医師会会員 雨田 実



干支とは十干と十二支を組み合わせる古来から暦に使われている。十二支は大部分の人がご存知と思うけれど十干は、戦前、戦中派の人々は学校で甲乙丙丁戊位までは、どなたもご存知でも全部をご存知の人は少ないと思う。そのうえに十干の読み方が干支で読む場合、甲、乙、丙、丁、戊、己、庚、辛、壬、癸と読み五行（木、火、土、金、水）の兄弟に配当して甲は兄、乙は弟、丙は兄、丁は弟、戊は兄、己は弟、庚は兄、辛は弟、壬は兄、癸は弟となり、甲の「え」と乙の「と」を重ねると、えと（干支）となり、それに十二支を組み合わせると読むとその年の干支となる。現在では余程のもの好きな人以外では貴方のえとはと聞かれても正しく答えられる人はあまりいないで大部分の人は、子年ですとか、午年ですとかの答えで、ごくまれに昭和41年生まれの人が丙午と答えるぐらいの寂しさである。十二支、子、丑、寅、卯、辰、巳、午、未、申、酉、戌、亥。大正十三年がたまたま十干と十二支の双方の初めの甲と子が組み合わさる年であったので、高校野球で名高い野球場がその年に完成したことから、甲子を音読みで甲子園と名付けられたのは余りにも有名である。幕末最後の年号、慶応の最後の年が江戸開城の

年で会津戦争の年でもあり、その年の干支が戊辰であったので音読みで現在でも戊辰の役と名付けている。十干と十二支をそれぞれ組み合わせると一年に一度のため60年を経て全部のコンビが終わり61年目に初めの組み合わせの干支が廻ってくる。これを本家がえりとか選暦という。官庁および会社などで満六十歳の誕生日つまり選暦の当日を定年としている所が多い。

北海道でも夕張に、丁未と呼ぶ地名があって北炭が本格的に採炭をはじめた明治40年が、たまたま丁未の年であったのでその地を音読みで丁未と名付けている。美唄にも癸巳という地名があり、明治26年にこの地に屯田兵が入植し、その年が癸巳であったので、その地を音読みで癸巳と名付け、この地に住む中年以上の人達は美唄で最も由緒ある地名であると鼻を高くしており、そのことと関係があるのか定かでないが、美唄ではこの地区から有末陸軍大将、真田陸軍少将、石倉昭和炭鉱社長はじめ多くの俊英が輩出したという。

話の筋道が少しそれたが、先日某所で選暦のことが話題になっていた。数え年と満年齢の双方に意見が分かれて結構な議論になっていて、双方が共に後に引かずにそのうえ双方に適当な

人数の応援がいたりして新年早々でもあり、アルコールが入っているから双方共にボルテージはあがる。小生用事があったので遅れて出席したのであるが、その席では年長者の部に属するので当然の如く意見を求められ大変にまよった。議論が大きくなりすぎている場合だけに、どう円満に納めるか？新年早々双方に満足するような結論となると難しい。結局のところ、年の功で数え年派には生まれてから61年目の年が還暦であり、満年齢派には満60歳になった日が還暦で昔から学校とか、官庁で満60歳定年の所があったので、その場合は生年月日の日が本家がいりとなるため、どちらのご意見も間違いではないと思いますと分かったような、分からないような結論で双方がシャンシャンで握手してホッとした。

そこで止めておけば良かったのに、ちなみに本年還暦の人は1939年昭和14年生まれの人々で、干支は己卯つちのえうといい、音読みでは己卯きぼうと読み希望と同じ発音で希望の持てる年だと思いますと結んで万雷の拍手をもらったまでは良かったが、多くの人達から干支についての細部についての説明を求められた。甲がどうしてきのえで兄で乙がどうしてきのとで弟なのかという質問に対する五行の説明だけでも大変なのに、大学から小学生までを一堂に集めての授業のようなもので教える方も、それ程干支を十分にマスターしている程でないのに、生徒の方がアルコールが入っているだけでも半分わからなくなっている

ので、はがゆいこと、はがゆいこと。哲学ではないが勉強すればする程分からなくなるようで、黒板まで用意しての授業も20分もすれば分からないだけに皆いやになりかけてきたのを感じたので、とっておきの名案として、お集まりの皆様ご自身の干支を教えて欲しい人は手を挙げて下さいと発言したところ、殆どの人が手を挙げて、なぜそれを早く言ってくれなかったの、この年になって他人の干支なぞ覚える必要など今更あるものか、自分の干支だけで十分だとは、けだし明言、なかには自分の干支を書かせた上に、留守番の奥さんの干支を書かせて、良いおみやげが出来たと大喜びして帰る年寄りも結構いて、新年早々良い供徳をしたと気持ち良かったが、奥さんの年も、生まれたのが何年か忘れてしまっている年寄りもいたりして、なごやかな新年町内会のひとこまであった。

小生先日私事で恐れているが、喜寿を迎えた。なんとか健康なことだけを神佛に感謝しているがこれで欲を言えば、ふところがふくらんでいればもっとたのしいのにとしみじみ思うのだが。

ようやく 喜寿をむかえて 寂しかり
己卯へいせいうまの 年の初めに